

□議員名：河野朋子

1 若者交流推進事業について

論点	この事業は、当初委託として予算計上されていたが、実際は、推進委員会で行う方式になっている。その理由は何か。
回答	内部で協議した結果、世話役をしていただける方がいらっしゃるということで、その方々と一緒にこの事業を推進していきたいということで変更した。

論点	推進委員はこの事業に対し当日の会場設営や進行など、どういった業務をしているのか。
回答	企画立案等については推進委員と企画課の職員2名が連携しながら行っている。これまでバーベキュー大会や竜王山の散策等行っているが、準備で必要なことは委員職員、各自がしている。当日の手伝いで課長が出ている。

論点	毎月行っていて、企画課の職員にかなりの負担があるのでは。「人口定住促進対策の総合調整」という企画課本来の仕事と言えるのか。
回答	総合調整、そのものずばりである。

論点	この事業の目的は定住促進であり、その成果はカップル成立数だと思うが、なぜ、カップル成立数を把握しないのか。
回答	出会いの場を提供するという認識でこの事業を進めている。連絡先交換については、直接本人同士がやるのではなくて、市を通してやってもらう。追跡調査はしていない。

論点	この事業は、決算委員会で全員が事業の見直しを求めているが、市長はどのように考えるのか。
回答	全員そろって見直しというのは、よほどひどい事業だなという感じを受ける。推進委員にも弁解というか、説明の機会を与えて当然ではないかと思う。

論点	民間にできることは民間に、職員は本来の業務に専念する。このような観点から、この事業を民間に委託すべきと思うが、どうか。
回答	業者はやはりお金かつ成果であり、いろんなリスクがある。そのあたり行政として、できるだけ安全に、そして背中をそっと押してやりたい、異性の手も握らせてやりたいと、そういう気持ちで運営している。

## 2 平日夜間診療所について

論点	この事業は平成22年度より開設されたが、その目的は何か。
回答	平日夜間において、救急診療を必要とする市民に対して、早期に応急的初期診療を行うことができる医療体制を整備して地域医療体制の充実を図ること、また、それにより勤務医の負担を少しでも軽減するために平日夜間急患診療所を設置した。

論点	これまでの利用状況や市の財政負担はどうか。
回答	H21年度は3人を超えていたが、以後は3人未満となっている。 H25年度は、最も多い月で1日4.3人、最も少ない月で1.8人である。市の財政負担は、1,288万円(H22)、1,367万円(H23)、1,365万円(H24)、1,339万円(H25)である。

論点	今回この事業について打ち切りの話が出たと聞いているが、その理由は何か。
回答	開設目的の一つである、救急告示病院の勤務医師の負担軽減になっているとは言い難い状況であることと、利用者数の低調と財政負担との費用対効果である。

論点	この事業の最大の問題点は市民に周知されていないことだと思うが、これまで市民への周知は何らかの方法で行われたのか。
回答	広報さんようおのだの10月1日号で掲載はしている。また、各医療機関の掲示板に張ってもらっている。

論点	広報の市長から市民の皆さんへのコーナーは、かなり市民が読んでいる確率が高いと思うので、そこで積極的に広報をしてほしい。
回答	市民への周知が足りないのではと、多分そうだと思う。まず市民にこの制度をよく徹底すべきであり、そうであれば市長のコラムも一役買うべきではないかということである。了解した。

論点	場所を市民病院の一角に移したら、市民にもわかりやすく、当番の医師の負担も軽くなると思うが、どうか。
回答	場所については、市民病院にするか労災病院にするか、当初からそのような話が出ていたが、そうすると、結果的にコンビニ診療を呼ぶということになり、勤務医の負担軽減にならないということで止めた。